



トピックス

日本蜘蛛学会第53回 大会印象記

下村 颯

皆さん初めまして。東邦大学 地理生態学研究室 修士2年の下村 颯と申します。私は普段、ハシリグモのシロスジ模様の適応的意義やクモの人工飼料を研究しており、今年から日本蜘蛛学会に入会させていただきました。初めての蜘蛛学会大会で印象記を担当させて頂けるとは夢にも思わず、驚いている半面、どんな形であれ遊絲に文章を載せられることを嬉しく思っています。拙い文章ではありますが、少しお付き合い頂ければ幸いです。

2021年度の蜘蛛学会大会は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響で、昨年に引き続き zoom を用いてオンラインでの開催となりました。大会開始時間の少し前に会場となる URL にアクセスすると、zoom の参加者欄に論文や図鑑などでよく拝見する著名な方々の名前とアイコンが続々とログインしていきます。「こうして参加者の方々を一覧で確認できるのもオンライン学会の良さだなあ」と感心しつつ、「この方々の前で研究発表を行うのか...」と怖気付いていると、あっという間に開始時間になり、田中会長の挨拶が始まりまし

た。

田中会長の挨拶にも述べられておりましたが、今年はオンライン開催にしたことで参加者が80名近くと大人数での参加となり、クモ学会の大盛況を予感できました。更に、去年から始まったショートプレゼンテーションという新たな試みもあり、それもまた楽しみでありました。田中会長の挨拶で、今日のシンポジウムや講演への期待が大きく高まった状態で、ついに午前の部であるシンポジウムが始まりました。

シンポジウムのテーマは「アリグモとアリミミックとモデルの行動・生態・進化」という事であり、クモ屋の方にはもちろんクモ屋以外の人にも人気が高いアリグモの話でした。まず始めはアリグモの話ではなく、国立環境研究所の坂本先生における外来アリのお話でした。私達クモ屋にとってアリの話は分からないのではと一抹の不安が過りましたが、そんなことは全くなく、むしろ普段触れていない新しい知見に触れる喜びと共にアリの面白さを存分に楽しむことができました。また坂本先生の軽快な語りやユニークなたとえ話もその一助になっていると感じました。

二つめの講演は、梶元先生によるアリグモの性的二形についてでした。ついにクモについての話が始まりました。特に私はクモの形態や多型についての研究をしていた為、より

面白く発表を聴かせていただきました。特に
缺角の長さが様々な条件で影響を受けるとい
う点は非常に興味深く感じました。

三つめの講演は兵庫県立大学の山崎先生に
よるアリグモ属の系統分類とモデル選択の収
斂進化についての講演でした。もちろん擬態
モデルの話も非常に興味深かったのですが、
何よりもアリグモ属の分類が複雑かつ多様過
ぎて驚くと共に、少しぞっとしました。私は分
類よりも専ら生態を研究しているので、「分類
を研究されている方は凄いなあ」と常々尊敬
しているのですが、改めて分類の大切さを認
識すると共に、アリグモ属の複雑な種分化能
に唯々興味が尽きませんでした。

そしてシンポジウムの最後は、兵庫県立大
学の橋本先生による講演でした。橋本先生は
アリグモが、なぜアリ擬態するのかをテーマ
に講演してくださったのですが、先ほど分類
の話で恐怖を覚えたのも束の間、擬態の研究
も非常に大変であることを身に染みて理解し
ました。しかしながら、やはり擬態の話は面白
く、擬態の精度と捕食能力にトレードオフが
あるといった話や、それに応じて植物食性が
強い傾向がある事、クモ自身が擬態モデルを
認識していると言った話は生物を研究してい
ない人でも面白いと思えるような、大変興味
深い内容であったと感じました。

その後、総合討論が行われました。シンポジ
ウムの各講演後に行われる討論の時間も含め
てですが、討論のレベルが非常に高いことに
感動しました。日本のクモ学を牽引されてい
る方々が参加されているので当たり前と言え
ば当たりの事ではありますが、蜘蛛学会大会
初参加の私にとっては、クモについての専
門的な議論がなされている事も初めてで、ど

の意見も鋭く射ているものばかりで、こ
れだけで既に蜘蛛学会に参加した価値がある
と思えました。

お昼の休憩を挟んで午後からは一般講演が
始まりました。一般講演の始めは学生発表賞
対象の講演で、私もここに属して発表させて
いただきました。私は2番手だったのですが
1番手の山本さんの研究がハイレベルであつ
た事や、学会発表が人生初めてであった事か
ら始まる前までは非常に緊張していました。
しかし、発表が始まると不思議と緊張は消え、
練習通りの発表ができました。私の発表を聴
いていただいた方にこの場をお借りしてお礼
申し上げます。また、今回は会場がオンライン
である為に質問の形式についても、口頭によ
る質問とは別で掲示板に質問を投稿するという
システムでした。このシステムは後から質
問の内容を何度でも確認・参照できて非常に
画期的なシステムだと感じました。また、先ほ
どの討論の内容と重複するのですが、どの方
も質問やご指摘が鋭く自分の考察不足を感じ
ると共に今後の研究においての参考になりました。
私の研究室にはクモを専門に研究してい
る方はいらっしゃらないので、クモについ
ての理解が深い方からのご意見ご指摘を頂け
るのは蜘蛛学会ならではの魅力です。

私の発表が終わってからも学生発表賞対象
の講演は続き、どの方の研究も同年代とは思
えないハイクオリティな内容で若手のクモ屋
のレベルの高さを感じると共に、自分も頑張
ろうという気持ちになり、良い刺激となりました。
また同じように私の研究も他の方々に
良い刺激を与えられていれば良いなあとも感
じました。

学生発表賞対象の講演が終わると、次はそ

れ以外の一般講演が始まりました。もちろんそれまでの発表もレベルが高かったのですが、やはり先生方の発表はレベルが高い。どの方の研究も情報量が多く複雑な研究をしているはずなのに、とても分かり易くまとめられておりゆっくり丁寧に説明しても時間ぴったりに終わる...といった具合に圧巻の発表の連続でした。自分もいつか同じ土俵まで登りたいと考えてはいるものの、まだまだ道のりは遠いということを痛感させられました。更には発表だけではなく研究内容のセンスも鋭いものがあると感じました。センスと言えば谷川先生方の「美女は鬼じゃない」というタイトルには痺れました。ユニークなタイトルでありながらも、クモ屋の人が見ると瞬時に意味が理解できるという点に、初めて見たときは「流石だなあ...」と思わず声が漏れてしまいました。

その後、数回の休憩を挟みながら一般講演は終了しました。

一般講演の次はショートプレゼンテーションが始まりました。ショートプレゼンテーションの応募欄には「ちょっとした観察記録など短い研究発表、自己紹介を兼ねたご自身の研究紹介、お知恵拝借など」とかなり控えめに書かれていましたが、どなた様の発表も「5分だけでは足りない!」「もっと聞きたい!」と思えるような発表でした。来年度の発表ではぜひ一般講演でお聞きしたいと思います。

その後、閉会の挨拶や学生発表賞の発表が行われました。私事ではありますが、その際に学生発表賞を頂きました。正直周りの方の発表が凄すぎて、私が選ばれるとは微塵も思っていなかった為、非常に驚き、そしてそれ以上に嬉しかったです。私の人工飼料の研究は所

属している研究室の分野にあまり沿っていない為、個人的な研究として細々で行っていたのですがこれを機に自分の研究に自信を持つことができました。また、学生発表賞は私だけではなく野口さんも選ばれました。聞くところによると、例年学生発表賞は一人だけが選ばれるものらしいのですが、嬉しいことに私と野口さんがかなり接戦だったそうで、「いっそのこと二人とも選出しよう」ということで、異例の二人受賞という形になったとのことでした。こういった柔軟な対応ができるのは蜘蛛学会の素晴らしい所だと感じました。今一度、発表を見て下さった方、そして評価をしていただいた方々に厚く御礼申し上げます。

大会終了後は懇親会の代わりに zoom を用いたフリートークの時間が設けられました。

「このクモな〜に?の部屋」と「若手(+若手と思っている人)の部屋」に分かれてのフリートークで、私は若手の部屋に入っていたのですが、自分以外にも沢山の若手クモ屋さんがいることを知って嬉しい気持ちになりました。更にフリートークの中で若手クモ屋の中で相互に連絡をとれるネットワークを作ろうという話も上がり、これからもっと若手のクモ屋が盛り上がっていく事を予感させる楽しい時間でした。来年度は懇親会が開催でき、もっと沢山の方とお話できる事を切に願っています。

長くなりましたが、第53回日本蜘蛛学会大会は初めて参加した私でも分かるくらいに大盛況でした。これも大会長の田中様、事務局長の岡田様、実行委員の村田様、山崎様、榎元様、そして講演者の皆様を含めた参加者の方々のお陰です。本当にありがとうございました。

来年は新型コロナウイルスが収束すれば、

愛知県での開催とのことです。愛知県で実際に皆さんにお会いし、お話しできる日を楽しみにしています。拙い文章ではありましたが、お読みいただきありがとうございました。

(東邦大学 地理生態学研究室 修士2年)

クモ類生息情報データベースの紹介

須黒達巳

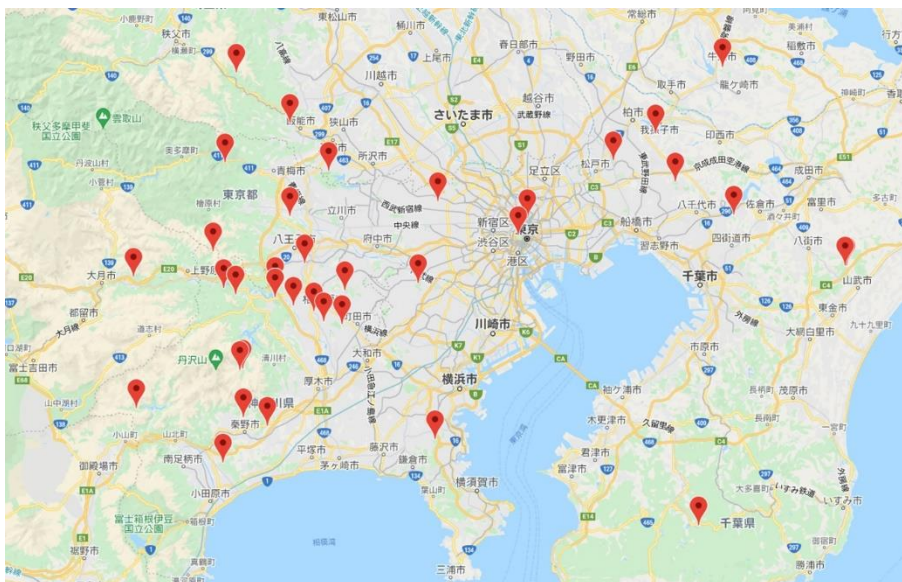
今年度から「データベース管理委員」を務めています、須黒です。突然ですが、私は東京の都心部、住所で言えば「渋谷区恵比寿」に位置する私立小学校に勤務しています。そしてここに務め出してから6年間、教員業のかたわら、構内の昆虫・クモ相の調査を続けています。勤務校の慶應義塾幼稚舎には、校舎やグラウンドの周りの植栽の他、首都高速道路を隔てた飛び地にビオトープがあるのですが、これらの小さな自然環境で、暇さえあれば(20も年下の小さな虫仲間たちと一緒に)虫探しをしています。



シロゴミグモも時々見つかりますが、ゴミグモは未記録です。

みなさんは、「さあクモ採集に行こう」と思った時、都心部の小さな緑地を選びますか？私は絶対に選びません。自然豊かな所へ出かけた方が面白いに決まっていると思うからです。勤務校構内の調査は、理科教員の先輩(なんと馬場さんの大学時代の同級生)の勧めで始めたもののなのですが、当初は「こんな街中のちっぽけな緑地で、面白い虫なんているはずがない」と思っていました。ところが、いざ初めてみると、ビオトープを主力としてどんどん記録種数が伸びていき、丸6年経とうとしている今、手元のリストを見てみると、900種を超える昆虫・クモが同定されているのです。クモだけで101種！このリストは、一部別途発表予定の分類群を除いて、オンライン雑誌「ニッチェ・ライフ」に近日掲載される予定です。

こんな調査をしていると、色々と興味深いことが出てきます。リストを構成するクモの中には、「常在」の種と、「稀に出現するのみ」の種がいます。そりゃそうだと思いますか？私の勤務校で言う「稀に出現するのみ」の種とは、ムツトゲイセキグモやカトウツケオグモではありません(それらは未記録)。オオシロカネグモとかクサグモとかなのです。こんな「普通種中の普通種」が、「いつもは見つからない」のです。逆に、例えばギンメッキゴミグモはたくさんいます。ジョロウグモも常に見つかります。正直に言って、私はこれらの4種のことを「適当に林に入ればうじゃうじゃいるやつら」と思っていました。ところが、勤務校では何らかの理由によって、オオシロカネグモやクサグモは定着できない(もしくは私の調査に引っかからないほどの低密度でしか生息できない)ようなのです。同じように「稀」、中でも「これまでに1個体のみ」というクモには、アオオニ



オオシロカネグモの生息情報を地図にプロットしたもの。データが詳しく集まっていけば、本種の生息に必要な条件が見えてくるはずです。

グモ、ドヨウオニグモ、コガネグモ、コガタコガネグモ、トガリアシナグモなどがいます。これらは、どこか近くの生息地から飛んできたものと思われますが、その後定着できてはいないようです。スズミグモは昨年初めて1個体を確認し、このメスが産んだ卵囊から多数の幼体が出たのを確認しましたが、結局今年は1個体も見当たりません。

「この種は定着できるが、あの種はできない」というのは何によって決まるのでしょうか。緑地の規模、特定の環境要素、過去の土地利用の履歴、周辺の環境...様々な要因がありそうです。これを解明することができれば、そのクモの生活史の理解が深まることにとどまらず、「都心部にどのような自然環境を創出すれば、あるいは残せば、効果的に生物多様性を保全できるのか」という問いにヒントを与えることになるでしょう。

...と、こんなアイデアが、蜘蛛学会のデータベースが活躍できそうな場面の一例です。

「クモ類生息情報データベース」は、会員のみなさんが、各種クモの生息地点情報を緯度経度で入力し、蓄積したデータをダウンロードして研究に利用したり、地図上にプロットして表示したりすることができるものです。「そのクモをその場所で確認した(つまり生息している)」というデータを、周辺の景観に関するデータ(標高や植生、緑被率など)や、気象に関するデータなどと組み合わせることで、様々な研究に活用することができます。例えば、現在の分布と気象データから、その種は年間最高気温が35℃を超える場所には生息できない、すると温暖化が進行していった場合にはどんな分布の変化が予測されるか...といったことがわかるかもしれません。ある種とある種は競争関係にあり、一方の生息がもう一方の生息を妨げる、といったケースも見つかるかもしれません。どこにでもいるように思えるクサグモも、生息地の緑地面積がいくら以上でないと生息できない...といった水準があるのかもしれません。多

岐にわたるテーマに活用できるポテンシャルを秘めた、蜘蛛学会が誇るデータベースが「クモ類生息情報データベース」なのです。

しかし、データの中身が充実しないことには、その真価を発揮することはできません。会員のみなさん一人一人がお持ちの生息地点情報を登録するごとに、確実にこのデータベースは一歩優れたものへと進みます。ぜひともみなさんのご協力をもって、蜘蛛学会のデータベースを、百歩も千歩も前進させていきましょう！

データの入力・利用は会員に限定しており、またログインのためのIDとパスワードが必要です。入力にご協力いただける方は、まずメールで須黒まで、ご希望のIDとパスワードをお知らせください。登録後、データの入力・利用ができるようになります。それでは、ご連絡をお待ちしています。

データベース管理委員 須黒達巳

t.s.schlegelii@gmail.com

参考：谷川明男（2013）クモ類生息情報データベースの開設。遊絲, 33, 17-18.

下謝名松栄名誉会員より 退会メッセージ

昨年度をもって蜘蛛学会を退会された下謝名松栄名誉会員より、学会員の皆さん宛のメッセージが送られてきました。以下に掲載します。

小生がクモの研究を始めたのは1959年

で、その頃はクモに関する文献が大変少なく困っていました。奇しくも1960年に画期的な八木沼健夫著「原色日本蜘蛛類大図鑑」が出版されました。初心者の小生にとってこの図鑑は私の研究を進めてくれた大きな柱となりました。採集した標本の同定依頼が縁で、その後、先生の指導の下で琉球列島のクモの解明に微力ながらもこれまで続けてきました。

特に学生的身での、高額な本やその他の参考文献等を入手するのが大変であることは私自身もわかっているので、退会に当たり文献が散逸（標本も含む）しないように、学生の頃から入手した文献とクモ形類（クモ、サソリ、サソリモドキ、ヤイトムシ類）の90%ほどは琉球大学博物館（風樹館）に寄贈し、保管されています。琉球列島のクモ形類に関心のある学会員は沖縄の調査にきたときに、未同定・疑問種のクモを調べ、琉球列島のクモ相の解明を進めていただきたいと希望いたします。

なお、東亜蜘蛛学会から日本蜘蛛学会にかけての60年間、意義深い学会生活を送れたこと、沖縄で二回の日本蜘蛛学会の大会が開催できたことは会員の皆様の御協力のおかげだと心から深く感謝を申し上げます。

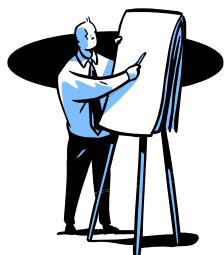
日本蜘蛛学会の一層の発展を祈願致します。

2021年3月31日記

下謝名松栄



言いたい！聞きたい！



クモ切手の風景

16

笹岡文雄

前回に引き続いて加治木町の話題です。

日本郵政公社が2003年（平成15）4月より、現行の切手の下のタブ部分に任意の写真を入れ、小型シートを作成できるサービスが始まりました。写真付き切手、愛称Pスタンプと呼ばれ個人を含め申込が出来ました。

個人向けは台紙の部分のデザインは指定されていましたが、1,000枚単位が条件の法人向けはそのデザインも自由に変更できました。額面に一定の手数料を上乗せさせて、依頼者に引き渡されました。

法人向けはキャンペーンなどの無料配布や直営店などの販売用に使われました。作成は企業だけでなく、多くの自治体が広報用などに行っています。

2004年6月、加治木町観光協会が製作、バックデザインは竜門司坂と龍門滝になっています。

切手の部分は上がクモ合戦、下は太鼓踊りを



- 切手と写真部分を郵便物に貼って、ご利用いただけます。
- 写真部分だけでは、切手としてご利用いただけません。
- 郵便料金納付のために写真付き切手をご利用の場合は、写真部分に捺印がかかることがあります。



図案にしていますが、それは切手ではないのではありません。目打ちでつながっていますが上が真正の切手（デザインは2003年発行のグリーンティンギン切手の流用）になります。ということでそこと切り離してしまうと、下の部分はただの写真になってしまうため、正確にはクモ切手ではありません。

ちょっと残念ですが、それでもこれは日本で唯一、クモが郵便関係にデザインされたものになります。ちなみに大きさは21.5×18.5cm、通常の記念切手20枚シートほどの大きさです。

Pスタンプは2007年（平成19）で受付中止になり、現在は内側に余白部分に任意の写真を入れられるフレーム切手が発売されています。

加治木町は合併で自治体としてはなくなりましたが、クモ合戦は依然地域の行事として残っています。クモそのものが切手の図案として使われるより、こちらの方が地方行事のシリーズか何かで採用されるかもしれません。

とはいえ日本でクモの図案の切手はいつかは発行されるでしょうか。

採集情報

日本各地で採集された稀産種や、都道府県初記録、島初記録、南限更新、北限更新など分布上の重要情報について掲載する。これを読み、「私もこんな種類を採集しているぞ」という方はその情報を是非お寄せいただきたい。

【このコーナーに掲載する記録は、証拠標本か、同定のキーとなる特徴がはっきりと撮影されている写真かのどちらかがあるものに限らせ

ていただきます。目撃談のみのものにつきましては取り上げません。また、幼体の記録についてはいろいろと議論のあるところですが、とりあえず現段階では、投稿があれば参考記録として掲載を継続させていただきます。しかし、**幼体での記録は誤同定の危険が大きいですので、可能な限り避けてください。**】

ヒメチャワシグモ 鹿児島県屋久島長峰
2021年5月15日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定 鹿児島県屋久島小島 2021年6月7日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

イサゴコモリグモ 埼玉県熊谷市大麻生
2021年5月18日 1♀1♂ 谷川明男採集同定



イサゴコモリグモ

ヤハズフクログモ 鹿児島県屋久島楠川
2021年5月18日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

クロヒラタヒメグモ 長崎県諫早市 2021年5月25日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

アシダカグモ 埼玉県春日部市梅田本町
2021年5月26日 1♀ 萩原昇採集・大河内哲二同定

ミナミコマチグモ 熊本県天草市牛深町 港

2021 年 5 月 29 日 1♀ 日高涼太採集・同定

ツシマトリノフンダマシ 鹿児島県屋久島春牧 2021 年 5 月 30 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ホシヒメグモモドキ 鹿児島県屋久島春牧 2021 年 5 月 30 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ムナアカナルコグモ 富山県射水市椎土 加茂池 2021 年 6 月 5 日 1♀1♂ 日野佑飛採集・鈴木佑弥同定



ムナアカナルコグモ

ナンゴクフノジグモ 宮崎県宮崎市高岡町高浜 二ツ橋溜池 2021 年 6 月 7 日 1♀ 串間研之採集同定・小野博嗣確認

キジロオヒキグモ 鹿児島県屋久島小島 2021 年 6 月 7 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヤギヌマノセマルトラフカニグモ 熊本県宇土市花園町 2021 年 6 月 14 日 1♀ 日高涼太採集・同定。熊本県熊本市中央区黒髪 2021 年 7 月 1 日 1♀ 日高涼太採集・同定。鹿児島県屋久島栗生 2021 年 7 月 13 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヒゲナガヤリグモ 鹿児島県屋久島木府川中流 2021 年 6 月 14 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ウデブトハエトリ 鹿児島県屋久島木府川中流 2021 年 6 月 14 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

フタオイソウロウグモ 鹿児島県屋久島長峰 2021 年 6 月 15 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

キヒメグモ 鹿児島県屋久島宮之浦 2021 年 6 月 17 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

リュウキュウヒメグモ 鹿児島県屋久島長峰 2021 年 6 月 11 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定。鹿児島県屋久島屋久杉ランド線 800m 2021 年 6 月 18 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定。鹿児島県屋久島湯泊 2021 年 8 月 9 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定。鹿児島県屋久島尾之間 2021 年 8 月 16 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ゲホウグモ 鹿児島県屋久島松峯 2021 年 6 月 20 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヒトオビトンビグモ 鹿児島県屋久島屋久杉ランド線 250m 2021 年 6 月 20 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ウロコアシナガグモ 鹿児島県屋久島湯泊 2021 年 6 月 21 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヤバネウラシマグモ 鹿児島県屋久島栗生 2021 年 6 月 21 日 1♂ 小西祐伸採集・谷

川明男同定

シマカレハグモ 鹿児島県屋久島永田 2021
年 6 月 29 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男
同定



シマカレハグモ

スナハマハエトリ 鹿児島県屋久島春牧 春田
浜 2021 年 7 月 3 日 1♂ 小西祐伸採集・
須黒達巳同定

カノコハエトリ 鹿児島県屋久島麦生 千尋の
滝 2021 年 7 月 4 日 1♀ 小西祐伸採集・
須黒達巳同定

コガネグモ 宮城県柴田町富沢小板葺 2021
年 7 月 8 日 1♀ 遠藤鴻明採集同定

ハヤテグモ 鹿児島県屋久島長峰 2021 年 7
月 11 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

オオトリノフンダマシ 鹿児島県屋久島平内
2021 年 7 月 13 日 1♀ 小西祐伸採集・谷
川明男同定。北海道函館市 道南四季の杜公
園 2021 年 8 月 25 日 1♀ 稲垣昌子・山
口健一採集同定 谷川明男確認

コキハダカニグモ 鹿児島県屋久島栗生
2021 年 7 月 13 日 1♂ 小西祐伸採集・谷
川明男同定

ムナアカフクログモ 鹿児島県屋久島白谷線

300m 2021 年 7 月 14 日 1♂ 小西祐伸採
集・谷川明男同定。鹿児島県屋久島尾之間
2021 年 8 月 14 日 1♂ 小西祐伸採集・谷
川明男同定

カグヤヒメグモ 鹿児島県屋久島平内 2021
年 7 月 15 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男
同定

ムナボシヒメグモ 2021 年 7 月 16 日 鹿児
島県屋久島白谷線 300m 1♀ 小西祐伸採
集・谷川明男同定

トカラハエトリ 鹿児島県屋久島尾之間
2021 年 7 月 19 日 1♀ 小西祐伸採集・須
黒達巳同定。鹿児島県屋久島長峰 2021 年
8 月 21 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同
定

コケオニグモ 福島県北塩原村檜原 2021 年
8 月 9 日 1♀ 遠藤鴻明採集同定。栃木県日
光市川治温泉高原 2021 年 9 月 9 日 1♀
遠藤鴻明採集同定。宮城県黒川郡大和町吉田
2021 年 9 月 17 日 1♀ 君島裕介採集同定・
遠藤鴻明確認

イソタナグモ 茨城県東茨城郡大洗町磯浜町
大洗港 2021 年 8 月 10 日 1♀ 納谷典明
採集同定。鹿児島県屋久島湯泊 2021 年 8



イソタナグモ



クロマルイソウロウグモ

月 22 日 4♀1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヨリメグモ 鹿児島県屋久島尾之間 2021 年 8 月 14 日 1F 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヤハズフクログモ 鹿児島県屋久島ヤクスギランド 2021 年 8 月 16 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

トゲグモ 鹿児島県屋久島栗生 2021 年 8 月 18 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

シロカネイソウロウグモ 鹿児島県屋久島榑川 2021 年 8 月 20 日 1F 小西祐伸採集・谷川明男同定

ナルコグモ 鹿児島県屋久島春牧 2021 年 8 月 25 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ゾウシキカニグモ 鹿児島県屋久島長峰 2021 年 9 月 2 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヒカリアシナガグモ 鹿児島県屋久島春田浜 2021 年 9 月 4 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

クロマルイソウロウグモ 鹿児島県屋久島榑

川 2021 年 10 月 25 日 1♀ 小西祐伸採集・谷川明男同定

クロナンキングモ 鹿児島県屋久島長峰 2021 年 11 月 2 日 1♀, 2021 年 11 月 5 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

コフクログモ 鹿児島県屋久島長峰 2021 年 11 月 5 日 1♂ 小西祐伸採集・谷川明男同定

ヒラヤジグモ 鹿児島県徳之島手々 2021 年 12 月 1 日 1♀ 谷川明男採集同定



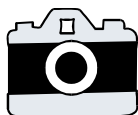
ヒラヤジグモの巣

<幼体による参考記録>

オナガグモ 北海道函館市 道南四季の杜公園 2021 年 9 月 21 日 1y 稲垣昌子・山口健一採集同定 谷川明男確認

(新海 明・谷川明男集約)





ギャラリー



『ん？、おや？』

タイのケークラチャン国立公園で撮影したメダマグモ類ですが、待機姿勢をとっているのに網の本体がありません。待機姿勢がとれているということは、姿勢保持に必要な枠組み部分ではできているのだと思います。しかし、足の間にあるはずの獲物を捕獲するための網本体がありません。これで捕虫できるのでしょうか。

最初の個体を見たときには、その個体だけの異常なのかと思ったのですが、そのあたりで見つけた 3 個体がみな同じで、待機姿勢になっているのに網本体がなかったのです。このような姿勢をとった後で頃合いを見て網本体を作るのか、あるいは、このクモの場合には網を使わずにつかみ取りで捕虫しているか、たいへん不思議に思いました。しかし、その晩の観察では捕虫したところも、造網したところも見ることができなかったのもので、何の答えも得られませんでした。

撮影・文 谷川明男

遊絲原稿送付先

〒192-0352 八王子市大塚 274-29-603

新海 明まで

E-mail では dp7a-tnkw@j. asahi-net. or. jp (谷川明男) まで

遊絲の発行は、年 2 回 (5 月, 11 月) の予定.

投稿締切は発行月の前月末日 (4 月末と 10 月末) です.

日本蜘蛛学会

homepage : <http://www.arachnology.jp/>

Atypus 閲覧のパスワードは ■■■

会費の納入、住所変更などは会員マイページでのご操作をお願いいたします.

年会費 正会員 7000 円 (学生は 5000 円)

会長・幹事

会 長

田中 幸一 kt206540+at+nodai.ac.jp>

庶務幹事

村田 浩平 kmurata+at+agri.u-tokai.ac.jp

片山 詔久 nory+at+nsc.nagoya-cu.ac.jp

会計幹事

甲野 涼 spidercatchup-at-yahoo.co.jp

編集幹事

山崎 健史 k0468874+at+gmail.com

図書幹事

原口 岳 h1r1g3ch2+at+gmail.com

遊絲 第 49 号

2021 年 12 月 13 日発行

編集者 新海 明, 谷川明男, 池田博明

発行者 日本蜘蛛学会 会長 田中幸一
